

The Symbolism of the Pan Shan Graves.

The Yang Shao Civilisation.

Index.

(中村清兄)

O Thiel, Erich; Verkehrsgeographie von Russisch-Asien. Osteuropäische Forschungen. Band 17. 308 Seiten, 7 Karten und 31 Abbildungen auf 16 Tafeln. 1934.

O. Hoetzsch 教授監輯の下に月刊雑誌 Ost-Europa 及び叢書 Osteuropäische Forschungen を發行し、ロシア或は東歐諸國の經濟事情の調査に活動して居る獨逸東歐研究會(Deutsche Gesellschaft zurn Studium Osteuropas)は叢書の第十七卷に本書を出版した。

Thiel は序文に於てロシアの統計資料の蒐集に困難な事情を述べて居るが、多數のロシア語の文獻を使用してその缺を充分補つて居る。本書は約三百頁に達する可なり大部の著書であるが、その構成は一般の交通地理學に關する著書と同様に總論と特論に分れ、總論に於ては「自然と交通」「人類と交通」「交通機關とその分布」に、特論

に於ては「水上交通」「陸上交通」「航空交通」「通信交通」の各章に區分されて居る。

その中「自然と交通」の部分に於て氣候との關係が、多く述べられて居るのは、シベリヤの如き地方に於ては、當を得た方法であらう。また「交通機關」の章に於ては、各種の橋、獨木舟、筏等の説明があり、民族學的にも興味ある文字と思はれるが、卷末の僅かな寫眞だけでは、細部の構造を理解し難い感がある。オブ、レナ、エニセイの諸川は封鎖的な北極洋に注ぎ、結氷期の長い缺點はあるが、水路の便の乏しいシベリヤでは矢張り交通の大動脈をなして居ると云はねばならない。従つて「水上交通」の内陸水路の部分に最も多くの紙數が割れて居る。

のみならず著者も亦得意とする所らしく、その記事は一つの水路誌となり得るほど詳細である。「陸上交通」では各地の主要道路を記載し、更にシベリヤ鐵道を始め多くの鐵道に就て述べて居る。

要するに本書は理論的な何かを求め様とする人にとつては得るところがないであらうが、斯る交通誌とも稱す

べき綿密な記述は、資料の豊富な地方でも一寸行ひ難い。然るに我々の知識の極めて乏しい、資料の不足な此の地方に、これだけの研究をなし得たとすれば *Travel* の著書は高く評價さるべきであらう。尤も強ひて云へば、航空交通が僅か三頁に止つて居るのは物足りない。勿論ソ聯邦の航空路は絶えず變更されるため、容易に正確な状態は知り得ないにしても、斯る廣汎な交通の遅れた地方に於ては、航空交通が極めて重要な意義を持つて居ら。殊に米國に次で航空交通の發達の著しいソ聯邦の航空路の重心がシベリヤに置かれて居ることを考ふれば、もとと多くの新しい問題が取扱はれてよい筈である。このことは單に航空交通のみに關するだけではなく、本書の全般的な缺點で、鐵道の部分でも、最近の五ヶ年計畫に基くソ聯邦の鐵道政策に就て觸ること少く、我々の關心を持つ大バク鐵道の建設に就ても殆ど記載がない。またトルクシブ線の政治的軍事的意義を全然見落して居る。なほ敢て瑕瑾を問ふならば、エニセイ河上流の *Obakan* 河がオブ河上流の *Bija* 河の支流となつて居り(七〇頁)。

Kokschetaw が *Ischim* 河沿岸に位置する如く記されて居るが(九〇頁)、*Ischim* 河は *Akmolinsk* から *Atbasar* を迂回して *Kokschetaw* 附近を通過して居ない。また *レナ* 河の河幅が中流の *Takusk* 附近でもまだ僅に七・五料となつて居るが(一一八頁)、狭きに失する様に思はれる。

——例へば *コムアカデミイ* 編の *ソヴェートロシヤ經濟地理*(經濟地理研究會譯)には十六料とある。——更に慾を云へば、寫真版が不鮮明であり、著者自筆の地圖も結構ではあるが、今少し詳細な地圖が附されて居れば、讀者にとつて多大の便となるであらう。(Ost-Europa-Verlag, Königsberg in Pr. und Berlin. R. M. 12.)

OWissenschaftliche Veröffentlichungen
des Museums für Länderkunde zu Leipzig.
Neue Folge Heft 1, 103 Seiten, 14 Figuren im Text, 1
Tabelle 23 Abbildungen auf 8 Tafeln.
1932.

Heft 2, 175 Seiten, 1 farbige Karte, 24 Figuren im Text,
42 Abbildungen auf 13 Tafeln. 1933.

Land und Volk an der Saar. 176 Seiten, 188 Abb.

bilan gen, 70 Karten, Pläne und Diagramme. 1934.

この二冊の紀要と一冊のパンフレットは昨年末ライプツヒヒ誌博物館より地理學教室に寄贈されたものである。ライプツヒヒ博物館は Semenow-Tian-Shansky の主裁するレニングラード地理學中央博物館を除けば、世界に於て唯一の地理學博物館である、一八九二年にライプツヒヒ出身の探險家として、又火山研究家として有名な A. Stübel が將來せる火山に關する多數の蒐集品を同市に寄贈し、民族博物館に地理部が設けられたのが、地誌博物館の前身となつたのであるが、其後陳列品も次第に増加し、民族博物館より分れて、一個の獨立した博物館にまで成長したのである。殊に獨逸地理學界の元老であり Weltschaftliche und politische Erdkunde の著者である R. Reinhard が現館長に就任して以來、更に充實を加へ、擴張計畫も建てられたのであるから（目下財界不況のため一時中止の状態にはなつて居るが）、將來一層の發展を見ることは疑ひのない所である。

茲に示した紀要は、一八九六年より一九一四年まで一三冊出版され、其後廢刊になつて居た Wissenschaftliche Veröffentlichungen を復活せしめたもので、一九三二年より年刊の形で引續き刊行される豫定である。内容も以前の紀要が説明書の程度に止つて居たのに對し、新版の紀要は地理學の各方面の論文を包括し、多くの鮮明な地圖や寫眞を加へた四六倍版の優れた出版物である。今その内容を列舉すれば、

第一輯は Reinhard, R., Grundsätzliches zur Frage geographischer Müssen.—Wilhelm, H., Die Oberflächenformen des Iskergebietes.—Schmithener, H., Landformen im aussertropischen Monsungebiet.

第二輯は Lehmann, F., Das Gotscheer Hochland.—Paul, G., Wirtschaft und Besiedelung im südlichen Amboand.—Menzel, A., Die Stufenansichten der zentralen Sahara.—Spannaus, G., Erläuterungen zu Konstruktion und Inhalt der Routenkarte der Leipziger Mosambikexpedition 1931.—Reinsberg P., Die

jungste Entwicklung der Luftbildaufnahme in ihrer Bedeutung für die Geographie.

以上の論文を紹介する充分な餘白がないため、その中の主なるものを選んで簡単に記して置く。

巻頭の Reinhard の論文は紀要の序文に代るもので、博物館の内容を紹介し、併て地理學博物館に就ての彼の見解を述べて居る。彼は地理學に於ては他の科學に比して一層眼で見るもの、教育、即ち地圖、寫眞、繪畫、圖表、標本、模型等が必要であると論じ、此等の夫々の效果や利用の方法を實際の經驗から記して居る。また地理學博物館に於ける陳列の方法は、地理學の區分と同様に一般地理と地誌の部分に區分すべきであるが、單なる分類に終らずして、觀覽者をして綜合の觀念を與へる様に配列すべきであるとなし、地誌博物館の南亞米利加(地誌)と石炭(一般)の部門の陳列方法を例證として擧げて居る。Wilhelmy は Isker 河流域の Sola 盆地内の段丘列と、盆地周圍の山地に於ける頂上部の準平原遺物を詳細に追跡し、第三紀から現在までの西部バルカン半

島の地形發達を推定して居る。Schmittener の論文は嘗て彼が旅行せる北支那地方の觀察を基礎にしたもので、我々が南畫に於て屢々見慣れて居る岩峰の孤聳する北支那の特異な地形と氣候との關係を論じたものである。即ち彼に従へば、この異様な山形は森林の荒廢に基く土壤の流出のためではなく、夏季高溫にして多雨、冬季乾燥して寒冷なモンスーン氣候に於ては、冬季には岩石が破碎され、夏季には劇しい降雨のため土砂が流出され、その結果削剝作用が著しく進むからであると云ふのである。Lehmann の地誌は Kraun カルスト地方の Gotschee を中心とする小地域のものであるが、カルスト地方の論文と云へば殆ど地形乃至地下水系に限られ、地誌を取扱つたものは Keys のイストリヤ半島等二、三に過ぎないのであるから、この點に於て注目さるべきものであらう。Paul の論文も西南阿弗利加の Amboland の地誌であるが、土人の經濟生活と聚落到主眼を置いて居ることは、我々にとつて特に興味深く感ぜられる。Amboland の如き草地帯に於ては、ハック耕が支配的な經濟形態をなし

て居る。従つて斯る農法の存在する地域に於ては、放浪遊牧的なホツテントットの居住する地域等に較べて、遙に大なる定着性が強制されるわけであるから、聚落もよ、固着的なものとなり、一方に於ては原始的な商工業の萌芽が胚胎するに至るのである。Mend はアルゼリア南部からニヂェル河流域に及ぶ中部サハラ沙漠の地形學的研究を發表して居るが、サハラ沙漠の特殊な階段狀地形と大ワヂは、現在の氣候ではなく、以前のより濕潤な氣候の下に成生したものと看做して居る。

最後に Lant und Volk an der Saar を紹介して置く。これは Reinhard と K. Voppel が編輯した小冊子で、表題からでも判る様に、本年一月に人民投票の行はれたザールのための大衆讀本とも稱すべきものであつて内容が通俗的なばかりでなく、ザールは獨逸へのヒットラーの宣傳が我々には目ざわりであるが、我國の類似の書籍が徒に概念的な言葉を羅列して居るのと異り、地誌博物館の圖表や模型、或は寫真や地圖を巧に使用して、ザールの土地と住民の關係を、小冊子ながら充分理解せ

しめる編輯の方法には多分に見ならふべき點があるであらう。(Ferdinand Hirt in Breslau u. Berlin) (以上 織田武雄)

○新義西洋史 原 隨 園 著

普遍史はかならず普遍的でなければならぬ、しかし、「普遍的なること」は必ずしも詳悉的なることを要しない。例へばランケの Epochen は決して詳悉的でない、にも不拘吾々はかくの如く普遍的なる普遍史を他に有つてゐるだらうか。原博士の近著「新義西洋史」も亦此のやうな意味に於ける普遍史の一であると思はれる。

「あらゆる部分は、その不完全さを免れんがために、全體と合致したがつてゐる」といふレオナルドの意味深き言葉を巻頭に掲げたのは、「全體への考慮即ち普遍の追求を第一義とする著者自らの心境の告白なのであらう。よき部分を寄せ集めても必ずしもよき全體を構成しないことは、美しき色を寄せ集めても卓れた繪畫とはならないのと一般である。部分の前に全體がなければならぬ。普遍史の著者は常に體系の所有者でなければならぬ。